

本書の編集者の一人である松島氏は、「感覚統合その理論と実践」第3版の日本語訳を積極的に牽引した人物でもあります。その翻訳書に先駆け、本書が出版されたことは、日本の読者にとっては幸運な事だと思います。

タイトルは「エビデンス」を謳ってはいますが、内容は作業療法士が臨床でクライアントに向かう際の「科学的思考を刺激する書」と捉える方が良いように思います。

本書の特徴は、自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、限局性学習症の臨床症状について、現在の神経心理学領域の基礎研究を紹介しながら、理解を深めようとしている点にあります。

作業療法の世界は「科学とアート」、「身体医学から精神医学」、「自然科学から人文科学」までを幅広くまたぐ奥深いものです。その幅広さゆえに、作業療法を支える基礎理論や研究法も多岐にわたらざるを得ません。その重要な1部を形作る「科学的」思考と知識を刺激する書が作業療法士達自身によって生み出された事を誇りに思います。

近いうちに出版される予定である「感覚統合その理論と実践」第3版と併せて読んで頂くことを是非お勧めします。

日本感覚統合学会 会長 土田 玲子